

# 尿検査でがん早期発見

## 北斗など5者が研究会

【札幌】社会医療法人社団北斗(帯広)など道内3医療機関とサツドラホールディングス、名古屋大学発のベンチャー企業「Craif(クライフ)」の5者は2月27日、がんの早期発見・早期治療を目指す産学医連携のコンソーシアム(共同研究会)「クラッシュ・キャンサー」を発足させ、札幌市内で協定締結式を行った。簡易キットによる尿検査でマイクロRNA(核酸)を解析し、がんのリスクを判定するもので、同キットを手軽に購入できるようサツドラ店舗が協力する。



加藤医師(前列中央)の呼び掛けで発足したコンソーシアム。後列右端は鎌田理事長

## サツドラ 5月に検査キット取り扱いへ

北斗病院腫瘍医学研究所の加藤容崇医師が3年前からクライフと共同研究を進めてきた。臨床研究の結果、がんのリスクが見つかる確率が9割を超える成果が得られたという。この技術を全道的に広めようと加藤医師が呼び掛けたところ、旭川市内の森山病院、札幌市内の静和記念病院、サツドラが共同研究に賛同。旭川医大や北大大学院が技術協力を参画することになった。

クライフは、がんまたは周辺組織から放出されるマイクロRNAの断片を高い効率で尿中から収集できる技術「マイシグナル」を開発。これをAI(人工知能)解析し、がんのリスクを判定して早期発見・治療に役立てる。特に、リスク発見が難しいとされる膵臓(すいぞう)がんや卵巣がんなどの早期発見・治療が期待できるといふ。

締結式で、クラッシュ・キャンサー発起人の加藤医師は「この技術を多くの人に有効活用してもらい、北海道のがん死亡率を下げたい」と意義を強調した。まずは道北、道東、道央圏の3病院が連携して治療法を確立し「全道カバー」を目指す。

対象は肺がん、膵臓がん、乳がんなど7疾患。中でも全国一肺がんの死亡率が高い北海道でその成果も期待され、加藤医師は「簡便な尿検査でこうしたがんの早期治療が確立できれば画期的なプロジェクトになる」と

と強調。北斗の鎌田一理事長は「このプロジェクトでがん死を半分にすることに焦点を当てて取り組みたい」と意欲を語った。

サツドラでは5月をめどに、帯広など10店舗で検査キットの取り扱いを始める。検査はキット購入後、自宅で採尿してクライフに郵送するだけで、約2週間後にはリスク判定結果が得られる。ホールディングスの富山浩樹社長は「気軽に検査を受けられるよう、裾野を広げるのがわれわれの役割」と話した。

(道下恵次)